

東京のタクシー運賃組替え案についての山内委員のコメント

- 日本のタクシー運賃は、長い間の慣行に基づくもので必ずしも合理的な運賃体系ではない。現行の初乗り運賃は国際的に見ても標準的とは言えないものなので、これを正していく方向の改定は、基本的には推進すべき取組と考えられる。
- 今回提案された東京のタクシー運賃組替え案では、初乗り運賃が安くなる一方、一定距離以上では現行より運賃が高くなる。このため、引き上げとなる距離帯での需要動向は注意深く見守る必要があるが、方向性として、負担力のある利用者に一定の負担をしてもらいつつ、潜在的な利用者が多くかつ価格弾力性が大きいと考えられる距離帯の運賃を安くするというのは、合理的な運賃改定と言える。
- ただし、タクシー運賃は、利用後に事後的に確定する性質のものであるため、消費者が予め料金体系を的確に把握していることが非常に重要となる。新運賃の導入は、消費者への周知を徹底するためのしっかりとした広報活動が行われ、情報の非対称性が少しでも小さくなることを前提としたものでなければならない。
- タクシー運転手の賃金水準は非常に低く、社会的問題の一つと言える。運転手が少なくとも現在の収入を維持していくためには、今回の運賃組替えが、業界全体にとって収益中立であることが必要である。また、現在タクシー事業にかかる経費の約7割が人件費と言われているが、運賃組替えにより適切なタクシー収入の労働分配が崩れるようなことがあってはならない。
- 東京では、かつて一部の事業者により、初乗りの運賃引き下げ及び距離短縮を行う「たまごっちタクシー」という試みが行われていたが、参加台数が少なく、定着しなかった。新運賃の導入に当たっては、当時の実績についての検証を行うことが重要である。

(以 上)